

自助＞共助＞公助 自己責任を 押し付け ますます細る社会保障

「安倍政権を継承する」と明言した菅義偉首相。「継承」ということは、これまでどおり景気は上がらず、わたしたちの暮らしは良くなる、格差は拡大する。公文書は改竄(かいざん)、かつてに破棄もする。人事権をちらつかせ官僚・霞が関に忖度政治を続けるということでしょうか。「自助・共助・公助」を言いだしたのも、安倍政権継承の一つですが、改めて強調するのは何故でしょう。

作家の雨宮処凛(あまみや・かりん)さんが解説しています(9月9日付「マガジン9」)。



目指す社会像は、『自助、共助、公助』、そして『絆』である、と言っているのだが…

そして「制度自体が立ち行かなくなる」と言って、じわじわと社会保障を後退させてきているのです。

知人のバイオリニストは、コロナの感染拡大の影響もあり仕事がなくなりました。「バイオリンを売って生活費に充ててください」と言われるから、生活保護を申請しないそうです。演奏家にとって、バイオリンを手放したら仕事すらできなくなるからです。

厚生労働省が9月に発表した6月の生活保護世帯数は163万6596世帯でした。コロナで解雇・雇い止めは全国で6万人を超えました(9月23日厚労省発表)。憲法25条が保障する「健康で文化的な最低限度の生活」(生存権)を支える最後のセーフティネットに無関心ではられません。

「自助」とは、自己責任で自分でなんとかしろ！
「共助」とは、一家心中するまで家族で助け合え！ 共倒れするまで地域で助け合え！
「公助」は、何もかも失わないと公的福祉は機能しないからやっぱり自己責任でなんとかしろ！

年金・医療・介護・生活保護が狙い撃ち

政府は、小泉政権時代から社会保障費を削減し、年金・医療・介護・生活保護などを引き下げたり自己負担を増やしたりしてきました。自民党議員らは「生活保護受給者の人権を制限しても仕方ない」「生活保護を恥と思わないことが問題」と繰り返しています。

“政権にもの言う学者は除外” 菅首相が日本学術会議の新会員任命で

「私どもは選挙で選ばれている。反対するのであれば、異動してもらおう」。菅義偉首相は官僚を人事権で威嚇。それと通底するのが今回の日本学術会議の新会員任命問題。同会議が推薦した105人のうち6人が理由説明もなく任命されなかった。任命権者は内閣総理大臣です。同会議は日本の科学者を代表する国の機関ですが、政府から独立性を保ち、政策提言などを行うことが確認されています。菅総理の恣意(しい)的運用に、撤回すべきとの抗議が続いています。(写真は国会前で、神奈川新聞より)



医療・福祉政策を抜本的に変えるとき

「自己責任」では政治は要らない

東葛健康友の会幹事 遠藤利夫

命の恩人だった榊原医師

「九条の会」立ち上げの世話人・作家の澤地久枝さんは書齋に榊原任(しげる)医師(日本医科大学長)の写真を飾っています。恋人ですかともいわれるそうです。澤地さんは28歳の時、「僧帽弁狭窄症」に罹患しました。当時、心臓外科の医師はわずかでした。澤地さんは名医榊原医師の二度の手術により生還でき、その後、「知の魂が呼応する」先生から多くのことを学び、素晴らしい作品を生み出す原動力になったそうです。榊原医師は命の恩人だったので

瀬戸際に立たされている病院

入院したことのある人、その家族など多くの人は澤地さんの思いと共通した思いがあると思います。しかし、在任期間最高を記録した安倍内閣にみられるように、長年の医療費削減が強引に続けられたため、日本の病院はぎりぎりの経営に追い込まれていました。そこに、コロナの襲来で崩壊の瀬戸際に立たされています。

日本の医師数はOECD加盟国36カ国中で32位、14万人不足しています。看護師・介護士不足も同様です。コロナのもと命がけで頑張っているこの人たちは、夏季手当まで減額されています。



東葛健康友の会は、医師、看護師、理学療法士らの付き添いで、普段なかなか旅行に行けない車いすの人も含めて年2回、楽しい旅行を行っています。東葛病院は、差額ベッド代をとらない、お金がなくても受診を拒否しないなど、「無差別・平等の医療」を目指しています。友の会はこの病院を地域みんなで支えていこうと頑張っています。

病院は私たちにとって最後の砦です。無くなってしまうと考えたらぞっとします。自民党の新総裁は「自助・自己責任」「安倍政権の継承」を宣言しました。いま多くの医師や文化人から「コロナ後には、前の社会に戻るのではなく、よりよい未来をつくろう」が大きな流れになっています。

「自己責任」では政治は要りません。いまこそ政権を変え、低医療・低福祉の政策を抜本的に変えるときではないでしょうか。

「第12回かしわ市民憲法集会」

2021年5月5日開催へ

■講演と映画のつどい

映画「沖縄スパイ戦史」(監督:三上智恵・大矢英代)の上映と三上智恵監督のお話

《沖縄戦の最も深い闇。少年ゲリラ兵「護郷隊」戦争マリア、スパイ虐殺…そして、ついに明かされる陸軍中野学校の「秘密戦」》

安倍晋三氏の実弟が防衛大臣に

菅政権で初入閣した防衛大臣は、なんと安倍前首相の実弟・岸信夫氏、61歳。父は安倍晋太郎氏、祖父は岸信介氏。「敵基地攻撃能力を含むミサイル防衛について今年末までにあるべき方策を示し、速やかに実行に移す」と言明。「専守防衛」をかなぐり捨て、自衛隊が米軍とともに海外で戦争する軍隊になることを「継承」する人です。

中曽根元首相の合同葬に1億9千万円

中曽根康弘元首相の内閣・自民党合同葬(10月17日)。必要経費が1億9千万円余り。このうち政府は今年度予算の予備費から約9643万円を支出。国民には自助を押し付け、元首相には公助ということですかね。コロナで葬儀もできない、という人もいるのに…。